

報告書抄録

ふりがな	きょうとふいせきちょうさほうこくしゅう
書名	京都府遺跡調査報告集
副書名	
巻次	第168冊
シリーズ名	京都府遺跡調査報告集
シリーズ番号	第168冊
編著者名	筒井崇史・岡田健吾・高野陽子・石井清司・竹村亮仁・米田拓海・清水麻里奈・伊賀高弘・松井忍
編集機関	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
所在地	〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40番の3 Tel. 075(933)3877
発行年月日	西暦2017年3月29日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		m <sup>2</sup>	
しもみずしいせきだいやじ(えふちく) 下水主遺跡第4次(F地区)	きょうとふじょうようしみずしだいらいしょうぐん、てらだかなお  京都府城陽市水主大將軍、寺田金尾	26206	88	34° 50' 48"	135° 45' 33"	20130422 ～ 20140227	2,756	道路建設
おんなだに・あらさかおうけつぐんだいじゅうよじ ごけどおりこふんぐんだいさんじ 女谷・荒坂横穴群第14次 御毛通古墳群第3次	きょうとふやわたしみのみやまごけどおりちない  京都府八幡市美濃山御毛通地内	26210	31 91 41	34° 50' 50"	135° 43' 33"	20151019 ～ 20160304  20160405 ～ 20160513	2,500  1,800	道路建設

備考：北緯・東経の値は世界測地系に基づく。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下水主遺跡第4次 (F地区)	集落・ 生産遺跡	縄文～中世	竪穴建物・土坑・溝・ 井戸・島畑	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・ 瓦器・木製品・銭貨・石製品	
女谷・荒坂横穴群 第14次	横穴	古墳～奈良	横穴・溝状遺構	土師器・須恵器・瓦・鉄製品・耳環・骨 製品	人骨出土
御毛通古墳群第3 次	古墳	古墳	円墳	甲冑形埴輪・草摺形埴輪・盾形埴輪・鶏 形埴輪・家形埴輪・須恵器・石鏃・鉄製 品	

所収遺跡名	要 約
下水主遺跡第4次 (F地区)	<p>平成25年度に調査を実施した下水主遺跡第4次調査のうち、F地区として12か所の調査区の調査成果について報告した。</p> <p>縄文時代の遺構・遺物としては、F5区で晩期の土器片を1点確認したにとどまる。</p> <p>弥生時代後期の遺構・遺物としては、F3・F6・F10・F11・F12区で土器が出土したほか、F10・F12区では円形の竪穴建物を検出した。各調査区でも出土遺物が多いことから、調査地周辺に広く集落が広がっていたと考えられる。</p> <p>古墳時代から奈良時代にかけての遺構・遺物はほとんど確認できなかったが、F1区で検出した掘立柱建物は古代の遺構である可能性が高い。</p> <p>平安時代から中世前半にかけては、井戸や土坑などを検出するとともに、多数の土器・木製品が出土した。</p> <p>中世後半以降になると、島畑が成立してくる。調査区が狭小であったため、島畑の全容は明らかにはならなかったものの、近世を通じて営まれたと考えられる。</p>
女谷・荒坂横穴群第14次  御毛通古墳群第3次	<p>女谷・荒坂横穴群第14次調査は、平成24年度に発掘調査を実施した地点の南延長部にあたり、丘陵斜面で7基の横穴の調査を実施した。そのうち、6トレンチの3基は墓道のみ調査で玄室部分の調査にはいたっていないが、13mの範囲に近接して横穴が配置されていることが明らかとなった。一方、7トレンチで検出した横穴は4基で、5～10mの間隔と離れた位置に配置されていることが明らかとなった。7トレンチの横穴は墓道とともに玄室部分を発掘調査し、51号横穴では須恵器・土師器とともに鉄器も出土したが、他の48・49・50号横穴では玄室床面での出土遺物はなかった。</p> <p>今回の調査では、横穴とともに丘陵平坦部で平成24年度に検出していた御毛通2号墳の北側の調査を行い、形象埴輪を多量に含む周溝の北延長部を検出した。</p>